

見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち

July 2015 vol.15

July						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

◆ 旧湊屋文右衛門邸

所在地：一宮市起堤町

交通：一宮市循環バス（i-バス）

「尾西歴史民俗資料館」停北約1km

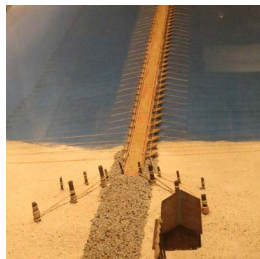
一宮市の西方、旧尾西市の木曾川沿いに位置する起宿は、東海道の宮宿（熱田宿）と中山道の垂井宿を結ぶ脇街道、美濃路の宿場町です。美濃路は全長約57km、途中7つの宿場があり、起宿は宮宿側から数えて5番目、尾張国と美濃国を隔てる木曾川を船で往来する渡船場「起の渡し」や川湊のある重要な宿場で、水陸交通の拠点として賑わい、美濃路の中でも一番規模の大きな宿場町でした。



名所図会の起宿

「起の渡し」は木曾川の東岸、現在の濃尾大橋の周辺に上流から上・中・下の3ヶ所の渡船場があり、通常使われた上は定渡船場と呼ばれ、定渡船場跡の金刀比羅社の境内には、渡しの安全を祈願し天保14（1843）年に兩岸に立てられた「起の渡しの常夜燈」がいまでも残されています。昭和31（1956）年に濃尾大橋が完成するまで、この渡船場は岐阜県と愛知県を結ぶ重要な交通手段でした。

また、下は将軍家などの通行のときに船橋をかけたので舟橋河戸と呼ばれ、270隻の船を使用し、約800mにも及ぶ日本最大の船橋が実際に計18回も架設され、現在は「船橋跡・高札場跡」の碑が残されています。



船橋の模型
(尾西歴史民俗資料館)

起宿は明治24（1891）年の濃尾地震で壊滅的な被害を受け、宿場のほとんどすべての建物が全壊しますが、地震に耐えた数少ない建物のひとつが、現存する旧湊屋文右衛門邸です。

湊屋文右衛門は、船庄屋のもと船方肝煎役（船数の調整など、木曾川の渡河の実務）を分掌し、早くから木曾川の舟運を利用して北陸地方など遠隔地と取引を行う有力商人で、渡し船を扱うだけでなく年貢米輸送にもあたっていました。寛政年間（1789-1801）には「縞木綿を扱う仲買商」として成長しています。（起村身代向書上には、小川文右衛門として記載されており、この小川家は明治年間に東京谷中に転居し、日本で初めてのデザインタオル製造といわれる「小川タオル」を興したとされています。）

旧湊屋文右衛門邸は、起宿の旧街道沿いの商家の繁栄を伝える大型町家で、定渡船場の



旧湊屋文右衛門邸

東、美濃路を上った北の端の起の渡しに折れる位置にあり、現在もそのまま残されています。建物は国の重要文化財に指定されており、市民団体「湊屋倶楽部」により管理活用がなされていて、平成23年5月には、玄関・居間・台所を改造して「茶店湊屋」がオープンしています。（裏面参照）

湊屋邸の南約1kmにある尾西歴史民俗資料館には当時の宿場町の模型があり、被害の様子が想像できます。濃尾地震に耐えた湊屋邸と起宿の被害をイメージし、美濃路の歴史を感じながらまちを歩いてみましょう。



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。





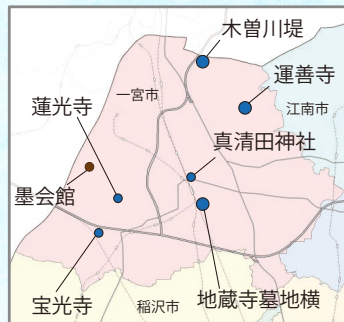
◆ 旧湊屋文右衛門邸の周辺には…

● 蓮光寺（震災死亡碑）

所在地：一宮市三条郷内

交通：i-バス「板倉北」停南約300m

蓮光寺では、明治24年濃尾地震の際に堂宇が倒壊し、明治39年7月に再建されました。境内には、濃尾地震の際に旧三条村で亡くなられた方を追悼するための「震災死亡碑」があります。



● 墨会館

所在地：一宮市小信中島字南九反

交通：i-バス「三岸節子記念美術館」停北約600m

国の登録文化財、墨会館は艶金興業株式会社の事務所で、昭和32年8月に竣工した、建築家・丹下健三の代表的作品のひとつです。敷地は西側の一部を斜辺とし北側の両角を直角とした台形で、建物は敷地北辺の2階建事務室棟と南半の平屋建ホール棟を玄関車寄で接続した形式となっており、同時期の倉吉市庁舎や香川県庁舎と同様な空間性を示しています。（詳細な地図は表面）



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 一宮七夕まつり

一宮七夕まつりは、織物の神様として知られる、^{ますみだ}真清田神社の祭神 ^{あめのほあかりのみこと}「天火明命」の母神 ^{よるずはたとよあきつしひめのみこと}「萬幡豊秋津師比売命」に感謝し、一宮の主軸産業である機織工業の繁栄を願う祭りです。7月の最終週に木曜日から4日間（平成27年は7月23～26日）開催されますが、なかでも特産の毛織物を^{ますみだ}真清田神社の摂社・^{ほとり}服織神社に奉納する土曜夕方の^{おんぞほうけん}「御衣奉獻大行列」は見ものです。60回目を迎える今年



は「東京ディズニーリゾート・スペシャルパレード」が参加し、ディズニーの仲間たちがクルーザーに乗ってパレードを行います。（7月26日10:30～県道名古屋一宮線 裁判所前交差点付近から松降交差点付近まで約800m）

7月のあいちの花

平成27年7月のあいちの花はドラセナ類です。ドラセナ類は熱帯アジア、熱帯アフリカの原産で、50種類以上が分布する常緑性の樹木です。葉の姿や模様が個性的で美しいことから、多くの種類が観葉植物として流通しています。



学名のドラセナは、幹から出る赤い樹液を龍の血と見立て、「龍の」という意味のラテン語に由来し、和名も「龍血樹」です。

● ブレイクタイム ●

♪ 茶店湊屋

茶店湊屋は、旧湊屋文右衛門邸の玄関・居間・台所を改造した茶店で、平成23年5月に開店しました。お茶を味わう部屋として、居間の椅子席のほか、ミセ、ナカノマ、ミセザシキ、ブツマ、ザシキが利用できます。

営業は毎週水・土・日曜日で、おはぎやわらび餅などのお菓子が味わえるほか、土曜日には、季節の食材を使った昔懐かしい家庭料理「湊屋御飯」がいただけます（要予約）。冬は、炭火の七輪を囲み、夏は、開け放し涼を感じて円卓を囲みます。なお、土日は近隣の駐車場が利用できます。ホームページ（<http://minojiminatoya.com/shop.html>）をご参照ください。



『茶店湊屋』

場所：一宮市西島町2-52-2

交通：i-バス「尾西歴史民俗資料館」停北約1km

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaian2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会（仮称）・名古屋大学減災連携研究センター 平成27年7月）

